



果樹・野菜の害虫防除に

# クミアイ アグロスリン®

## 水和剤

広い  
殺虫スペクトラム

優れた速効性

優れた残効性



### 適用拡大

作物追加

「さくら」の「クビアカツヤカミキリ」

害虫追加

「かんしょ」の「ハムシ類」、  
「かんぎつ」の「ミカンバエ成虫」、  
「おうとう」の「クビアカツヤカミキリ」等

※詳細は裏面でご確認ください。



適用作物・害虫と使用方法

\*印は本剤およびシペルメトリンを含む農薬の総使用回数 2024年7月現在の登録内容(文字は2024年6月26日の適用拡大)

作物名	通用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期(収穫前)	総使用回数*	使用方法	
キャベツ	アオムシ、コナガ、アブラムシ類 ヨトウムシ、タマネギウワバ	1,000~2,000	100~300 ℓ/10a	7日前まで	5回以内	散布	
	アザミウマ類	1,000					
はくさい	アオムシ、コナガ、アブラムシ類 ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1,000~2,000		前日まで			
	アザミウマ類	1,000					
だいこん	アオムシ、コナガ、アブラムシ類 ヨトウムシ	1,000~2,000		7日前まで			1回
はつかだいこん	アオムシ、コナガ、アブラムシ類 ヨトウムシ	1,000~2,000		3日前まで			1回
なばな類		1,000		7日前まで			3回以内
レタス	アブラムシ類	2,000		7日前まで			5回以内
非結球レタス	アブラムシ類			2回以内			
ピーマン	アブラムシ類、タバコガ	1,000		7日前まで			5回以内
きゅうりすな	オンシツコナジラミ アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ		1,000	前日まで			
トマト	アブラムシ類		1,000~2,000	前日まで			
ミニトマト	アブラムシ類 オンシツコナジラミ		2,000		2回以内		
すいかメロン	アブラムシ類		1,000~2,000	7日前まで	5回以内		
たまねぎ	アザミウマ類			1,000			
みょうが(花穂)	アブラムシ類		1,000	7日前まで	5回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	
	アザミウマ類 ハスモンヨトウ			1,000			
みょうが(莖葉)	アブラムシ類		1,000	前日まで	5回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	
アザミウマ類 ハスモンヨトウ	1,000						
ばれいしょ	アブラムシ類	1,000~2,000	7日前まで	4回以内			
てんさい	ヨトウムシ		14日前まで				
かんしょ	ナカゾシタバ、ハスモンヨトウ	1,000~2,000	7日前まで	5回以内	散布		
	アブラムシ類					1,000~2,000	
かんしょ(莖葉)	イモコガ、エビガラスズメ コナジラミ類、ネギアザミウマ ヨトウムシ、ハムシ類	1,000	7日前まで	2回以内			
	アブラムシ類	1,000~2,000	2回以内				
茶	チャノココクモンハマキ チャノホソガ、チャハマキ	1,000	200~400 ℓ/10a	摘採14日前まで	1回		
	ヨモギエダシヤク チャノミドリヒメコバヤ チャノキイロアザミウマ	1,000~2,000					
さくら	クビアカツヤカミキリ	1,000	200~700 ℓ/10a	成虫発生初期	6回以内		
かんきつ	アブラムシ類、カメムシ類 チャノキイロアザミウマ、アケビコノハ、 ヒメエグリバ、ミカンバエ成虫	2,000	200~700 ℓ/10a	7日前まで	3回以内		
	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ	1,000~2,000		前日まで	2回以内		
りんご	キンモンホソガ シンクイムシ類	1,000~2,000				前日まで	3回以内
なし	ハマキムシ類 モモチョッキリゾウムシ ヒメシロモンドクガ	1,000		前日まで	5回以内		
もも	ナシチビガ、アブラゼミ	1,000~2,000				前日まで	3回以内
なし	シンクイムシ類、カメムシ類 アブラムシ類、ハマキムシ類			1,000			
もも	モモハモグリガ、シンクイムシ類 アブラムシ類、カメムシ類 アカエグリバ、アケビコノハ オオエグリバ、ヒメエグリバ	1,000~2,000		クビアカツヤカミキリ	1,000		
かき	カメムシ類、カキノハタムシガ アザミウマ類	1,000~2,000		クビアカツヤカミキリ	1,000		
ぶどう	フタデヒメコバヤ コガネムシ類	1,000~2,000		クビアカツヤカミキリ	1,000~2,000		
くり	クリタマバチ クリシギゾウムシ	1,000		クリタマバチ	1,000		
おうとう	カメムシ類、ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ クビアカツヤカミキリ	1,000	クリシギゾウムシ	1,000~3,000			
うめ	アブラムシ類、モモヒメコバヤ	2,000	カメムシ類、ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ クビアカツヤカミキリ	1,000			
すもも	シンクイムシ類、カメムシ類 クビアカツヤカミキリ	1,000	アブラムシ類、モモヒメコバヤ	2,000			
ネクタリン	シンクイムシ類、 アブラムシ類、モモハモグリガ カメムシ類	1,000~2,000	クビアカツヤカミキリ	1,000			
くるみ	アメリカシロヒトリ	1,000~2,000	クビアカツヤカミキリ	1,000			

上手な使い方

- 害虫の発生初期をねらいます。** 優れた残効性を活かして、害虫の発生初期や害虫の密度が高まる前、従来よりやや早いタイミングで散布してください。
- 数種の害虫の併殺をねらいます。** 広い殺虫スペクトラムを活かして、同時に発生する数種の害虫の併殺をねらいます。
- ていねいに散布します。** 害虫は薬剤のかりにくい葉裏にも生息します。散布に当たっては、かけ残りのないようていねいに行ってください。
- 他剤とのローテーション散布を行います。** 感受性低下害虫の出現を防ぐため、ピレスロイド系薬剤(殺虫剤分類: 3A)の連続使用はさけ、作用性の異なる殺虫剤を組み入れたローテーション散布を心がけてください。

**使用上の注意事項(抜粋)**

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- ボルドー液と混用する場合は使用前に混合してください。
- くりのクリタマバチには羽化脱出期、クリシギゾウムシには梨果前にそれぞれ使用してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の茶での散布は、場合によりハダニが増えることがあるので注意してください。
- みずかけな(水掛架)に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用後14日間は入水しないでください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には、直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。散布液を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 施設内で使用する場合、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ってください。
- 本剤はのど、鼻、皮膚などを刺激する場合、またかゆみを生じる場合がありますので注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄圍いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。①ミツバチの巣箱及びその周辺に近づかないようにしてください。②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中いる場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 蜜に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、蜜に付着するおそれのある場所では使用しないでください。
- 水産動物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 水産動物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。